子どもをのばす言葉がけ

よりそう

よしよし
それでいいよ
［肯定する］

りっぱだね
よくがんばったね
［ほめる］

そうね
それから…
［引き出す］

うれしいね
楽しいね
［共感する］

日常生活の中で、子どもへの言葉のかけ方ひとつで、「もっとがんばろう」「やってみよう」から「できない」「したくない」と、心のあり方や意欲が変わってきます。言葉のかけ方を、子どもに「寄り添う」ように心がけると、その一言が力をもち、子どもの意欲や関心を高め、生きる力を伸ばします。

アドバイスをいただいた方
富山大学
人間発達科学部教授
神川 康子先生

日常生活には、ここに例示したようなケースが連続的に、毎日起こります。そして実際には、家庭によって条件が違いますから、言葉のかけ方やその内容も異なってきます。

ただ、どんなケースにも共通するキーワードは、子どもに「よりそう」ことです。明らかに子どもが間違っている時でも、最初から、頭ごなしに、子どもを全否定する言葉をかけるのではなく、いったんは子どもに寄り添って現状を受け止める。そして一呼吸おいて「でもね…」と切り出せるようにしたらいいでしょう。言葉のかけ方によって、子どもの意欲を伸ばすこともありますし、逆にやる気の芽をつんでしまうこともあるのです。

しかしながら、いつも冷静に、プラスの言葉がけができるわけではありません。エプロンを引っ張る太郎君の例のように、「あっちへ行ってて」ときつく当たることもあるでしょう。そういう場合は、後から「さっきはごめんね。で、なんだっけ？」と言添えるだけでも親子の信頼関係を保つことができるのです。

同じ場面でも、言葉のかけ方は人によって違います。このプログラムでは、いろんなケースでの言葉のかけ方を、家庭内だけでなくPTAや地域の皆さんと一緒に考えていただくことをお勧めします。

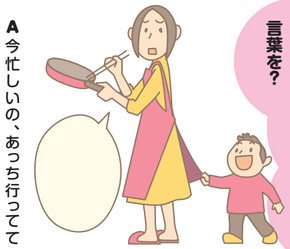
それぞれのケースに、100点の正解はありません。実際に試していただくと、いろんな言葉がけの例が出てきます。その言葉がけのバリエーションをたくさん持っていると、子育てにあたっての気持ちが少し楽になり、子どもに「よりそう」言葉を選ぶことができるようになるのです。

左は、子育ての際によくある場面です。あなたならどう言いますか。例示した言葉がけなども参考にしてみてください。

幼児編

例1

食事の用意をしていると、太郎くんがエプロンを引っ張って…。さて太郎くんにどんな言葉を？



A 今忙しいの、あっち行ってて（と言いつばなし）。

B 引っ張ると、苦しいな。お母さん、困っちゃうわ。

C 一緒に遊びたいの？でもテレビ見て、しばらく待っててね。

D カ、強くなったね。今火をとめるから、ちょっと待って。（安全を確保してから）で、どうしたの。

アドバイス
日常生活には、こうした場面はよくあります。すぐに、対応できない場合には、後から、「さっきはごめんね。で、どうしたの？」と子どもに寄り添うことで、信頼関係を保つことができます。

例2

ごはんやお風呂、何をいっても「イヤイヤ」という育代ちゃん。さてそんな育代ちゃんに何と…？

A くずずいってないで、早くして！

B すっごくおいしいごはんだよ。先に食べてるね。

C お父さん（お母さん）もイヤイヤ…（と子どものマネをする）。

D ○○したくないんだね。じゃあ、どうしたいのかな。おしえてね。

アドバイス
幼児期には、気持ちを上手に表現できず、何を言っても「イヤイヤ」と否定する時があります。子どもは大人の反応を見ています。言葉にならない気持ちを察することが大切です。

例3

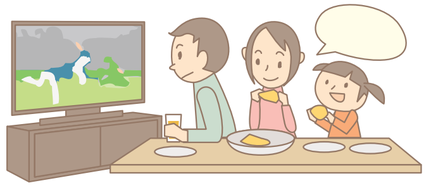
ほたるちゃんが保育所の畑で掘ったサツマイモ。皆に配られ、お母さんがふかしてくれました。でも、お父さんはテレビに夢中。さて、お父さんを会話に巻き込むために何といいます？

A （強い口調で）お父さんテレビばかり見てないで、ほたるの話を聞いて！

B ねえ、お父さん。ほたるのお話聞いてあげて。

C ほたるが掘ってきたサツマイモ、一緒に食べよう。ホクホクだよ。

D ねえ、お父さん、○○チームの調子は、最近どう？ところで、今日、ほたるがね…。



アドバイス
子どもやお父さんの気持ちを考えながら、少しでも、家族の会話がはずむような言葉がけをしたいものです。お父さんもお母さんに寄り添ってください。

1・2年生編

例4

聡くんがテストを持ってきました。見ると30点。さてあなたは何と…？

A どうしたの、この点数。遊んでばかりいないで勉強しなさい。

B お父さん（お母さん）悲しいな。

C お父さんも点数の悪い時あったよ。今度がんばろう。

D 隠さずに見せてくれてありがとう。わからなかったところ、一緒にやってみようか。

アドバイス
子どもの自尊心を傷つけないように、分からなかった70点を次に活かせるような声がけをしましょう。

例5

ゲーム好きな隆くん。宿題が終わってから1時間だけという約束をしましたが、ある日の夕方、宿題を途中で投げ出してゲームに夢中です。こんな時、何といいます？

A 約束したでしょ。守れないのなら…（とゲームを取り上げる）。

B いつまでやってるの？夕飯片づけるよ。

C 楽しそうだね。でもごはんだから止めてね。

D （おだやかに）さっきゲームの約束したよね。なんだっけ…。（隆くんが答えると）すごいね。ちゃーんと覚えてる。じゃあ、どうする？

アドバイス
子どもが「今いいところだから、あっち行ってて」という言葉に迎合すると、子どもはやりたい放題になる可能性があります。家族で話し合ってルールをつくり、お互いに守ることが大事です。

例6

優香さんが朝、「学校に行きたくない」と急にいいました。こんな時何といいます？

A そんなこと言っていないで、熱がないなら、早く行きなさい！

B お母さん、仕事休めないんだけど、一人で家にいる？

C 体の調子でも悪いの？お医者さん行こうか。

D 学校行きたくないんだ。学校で何かあったの？よかったらお母さんに話してみて。

アドバイス
低学年のうちは、いわゆるイジメよりも友だちとのケンカなどが心のしこりになる場合もあります。子どもの立場に立って、体調が悪いのか、精神的に何か負担になっているのかを、それとなく注意してみてあげましょう。

「親を学び伝える学習プログラム」より

「親を学び伝える学習プログラム」とは

核家族化が進み、人間関係が希薄になった現代では、親としての心構えや子どもと接する時に大切な知恵などをあらかじめ身につけることが難しくなりました。そこで県では、親としてのあり方を幅広く学習するためのプログラムを作成し、平成20年3月に発行しました。

子育てのいろんな場面を設定し、どのように対処するか、どのように子どもに言葉をかけるかを具体的に考えます。

発行以来この3年間で、約8000人の方に参加いただき好評を得ました。今年3月には、第二弾に盛り込めなかった点と、新しい観点を補足して第2弾が出されました。PTAなどの会合で、合わせてお使いください。

（お問合せは、県教育委員会生涯学習・文化財室まで）

ダウンロードできます
http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/program.pdf

学習プログラムの活用の仕方

●ご夫婦でいろんな答を考えてみましょう。祖父母の方も交えて一緒に話し合ってみてください。

●PTAなどの会合では、数名ずつのグループに分かれ、役割分担してそのセリフで演じてみるのも一考です。また他のグループの発表を聞いたり、皆さんの答をまとめて資料にし、それを元に話し合ったりするのもいいでしょう。

●老若男女、いろんな職業の方が混ざった会合で行うと、多様な意見が出て参考になります。

幼稚園PTAによる親学び講座

企業内家庭教育講座

感想・ご意見募集

「子どもをのばす言葉がけ」の特集はいかがでしたでしょうか。本号の感想、またお子さんへの言葉がけの中で感じたことなどを、ハガキでお送りください。感想等をお寄せいただいた方の中から抽選で3名の方に左の本をプレゼントします（ハガキにはお名前、ご住所、電話番号を明記ください）。

締め切りは5月16日

子どもの心が広く豊かに育つ語りかけ100（エクスナレッジ）

宛先
〒930-8501
富山県教育委員会生涯学習・文化財室
かわら版「ほっとタイム入」感想係
（住所記載は不要です）

■前号の当選者
教育委員会で厳正に抽選し、左記の方々が当選。
「睡眠改善学」をお送りしました。
滝田えく子さん、杉本晴彦さん、滝美由紀さん